

すべては、  
あしたの  
高槻のために。



市政報告 4号  
(市内全戸配布)

## 「4年連続待機児童ゼロを達成」 そのカラクリと潜在的な待機児童問題

高槻市議会議員 / 無所属 / 30歳

# 竹中 健

たけなかけん 1987年7月生まれ  
阿武山小学校・中学校 / 春日丘高校  
立命館大学 法学部 卒業  
会派「自民党・蒼政会議員団」所属  
家族は妻と娘(1歳) 趣味はサッカーと読書

## 日々の議員活動のご紹介

### ■ 政策調査・研究

未来にわたって活力と魅力のある高槻市にするために、議員本来の仕事である政策の調査・研究に力を入れています。思い込みや勘ではなく、客観的な根拠となる数字やデータに基づく政策を立案することにより、**貴重な税金を無駄遣いせず、少ない費用で効果の高い政策の実現を目指しています。**



### ■ 活動報告

市議会議員は、特定の地域や団体のためではなく、「**全市民**」のために働くことが仕事です。つまり、議員には地元地域だけに限らず、市内全域に活動報告をする責任があるはず。だから私は、**自らの足で市政報告チラシを市内全戸(約15万戸)へ年間2回配布し、市内のすべての家で駅立ちを実施しています。**



### ■ 市民相談

前述の通り、議場での政策提案に力を入れている一方、市民の方々からご連絡をいただき、市民相談への対応もしています。この**市民相談から政策提案につながる**ことが多くあります。現実的に実現できること・できないことはありますが、みなさんの日々の暮らしが少しでも改善できるよう対応策を全力で考えています。



## 潜在的な待機児童の解消

2017/9  
一般質問  
子育て

- 1分でわかる「潜在的な待機児童」問題
- ① 厚労省の新基準では、「交通手段の違い等を考慮した上で、通勤時間、通勤経路等を踏まえて判断」し、各家庭の利用可能な保育所を決めることになっている。
  - ② しかし、高槻市では市内すべての保育所を全家庭が利用可能であるとしているため、待機児童から除外される「潜在的な待機児童」が発生。
  - ③ 高槻市独自基準により待機児童から除外されている児童が291人。本来は待機児童として扱われてもおかしくないため、この児童たちが入所できるだけの保育所整備を要望。

## なぜ潜在的な待機児童が発生してしまうのか？

高槻市では、平成26年度から4年連続で待機児童ゼロを達成しています。しかし、「潜在的な待機児童」は、むしろ毎年増加しており、現在では631人も存在しています。なぜこのようなことになっているのでしょうか。そこで、最下部の表をご覧ください。

った児童が「(C) 潜在的な待機児童数」になりますが、「(D) 待機児童から除外できる児童数」が同じ人数いるため、待機児童ゼロが達成されています。この基準は厚労省が示しており、一見仕方ないようにも思えます。しかし、ここで問題なのが、★のついた「臨時保育室等に入所できるがしていない」「立地条件が登園するのに無理がない」の2つです。要は「利用可能な保育所等があるのに、利用しないなら待機児童には数えない」という意味で設定されているものです。厚労省が「通常の交通手段で30分未満は利用可能」という曖昧な基準にしていたため、どこまでを利用可能な範囲に設定するかが自治体ごとに違ってしまっています。そこで、平成29年3月に新基準が示され、「**地域における地理**

的な要因や通常の交通手段の違い等を考慮した上で、通勤時間、通勤経路等を踏まえて判断する」と追加されました。**高槻は「利用可能な範囲」をどう設定している？**そこで、高槻市の利用可能な範囲を確認したところ、「**市内全域**」に設定しており、**市内のどこかに1枠でも空きがあれば待機児童に数えていない**ことがわかりました。しかし、市内全域を利用可能とすることは無理があります。各家庭の交通手段の違いや通勤経路等を考慮する新基準を遵守すれば、たとえ市内のどこかに車で30分未満で利用できる保育所等があったとしても、利用可能だとは言えなくなりましたからです。

待機児童の状況(平成29年4月時点)	
申込者数(A)	6,774人
利用児童数(B)	6,143人
<b>潜在的な待機児童数(A-B=C)</b>	<b>631人</b>
待機児童から除外できる児童数(D)	<b>631人</b>
第一希望のみを希望	133人
臨時保育室等に入所できる★	165人
立地条件が登園に無理がない★	126人
その他	207人
<b>待機児童数(C-D)</b>	<b>0人</b>

## 新基準への正確な対応と潜在的な待機児童の解消を

行政の都合ではなく、市民目線に立った子育て支援を行うべきです。以上を踏まえ、まずは高槻市でも**国が示す新基準へ正確に対応**するよう要望しました。また、高槻市独自の基準をすぐに変えられないとしても、この基準によって発生している約300人の潜在的な待機児童については、**待機児童と同様に扱い、この児童たちが入所できるだけの保育所等の整備を行うよう強く要望**しました。

漠然とした人口施策では解決できない

高槻市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成26年10月に閣議決定された国の同戦略に基づき、平成28年2月に策定されました。この計画の一番の目的は、高槻市に住む「ひと」を増やすことです。しかしながら、策定の経過を勘案しても、計画に盛り込まれた各種施策は、既存の施策、あるいはその延長線上にあるものをただ羅列しただけです。本来は高槻市固有の課題等について、アンケートなどで集めたデータを客観的に分析した上で、各種施策を企画するべきです。つまり、ただ漠然と対応する

のではなく、人口増加と密接に関連する施策およびその重要成果指標を計画に盛り込み、人口増加に向けて、積極的かつ具体的に取組むべきだと考えています。

データ分析に基づく人口増加策の立案を

そこで、「課題把握のためのデータ分析」「本戦略の改訂の際、具体的に人口増加につながる施策を盛り込むこと」「全庁一体となった本戦略の推進体制の構築すること」について質問・要望しました。役所からは、これらについて取り組んでいくという答弁がありましたので、確実に取り組まれるように今後も注視してまいります。

持続可能な行政運営を実現するために

自治体では、あらゆる分野でシステム導入を行い情報化を進める一方で、IT関連経費の増大が課題となっています。人口減少社会の中で持続可能な行政運営を実現するためには、情報システムの効率的・効果的な導入の仕組みなどが必要だと考えています。そこで、平成28年6月にこの件について一般質問しました。その質問のあと、IT関連の経常経費の長期的な削減を目的とした「情報システム最適化・再構築計画」が本市で策定されました。その計画の方針として、「クラウドを利用したサーバ統合」と

「ITガバナンスの強化」が示されたため、その進捗状況について質問しました。

2億円の経費削減と庁内のIT関連整備

サーバ統合では、10年間で約2億円もの経費削減が見込まれており、ITガバナンスの強化では、私が提案していた、全庁のIT資産を管理する「システム台帳」の整備、システム調達時における手順などを定めた「IT調達ガイドライン」の整備、IT政策課によるシステム内容や見積の精査の徹底などに取り組んでいるとのことでした。非常に前向きに取り組んでくれていますので、引き続きの着実な実行を要望しました。

校務支援システムの導入

教職員が一人ひとりの子供に向き合う時間を確保し、質の高い教育を実現するために、校務支援システムの導入を提案しました。

1分でわかる「校務支援システムの導入」
① 教職員の多忙化解消のために、全国的に校務支援システムが導入されている。校務支援システムを導入することで、効率的な校務処理による教育活動の質の改善、教職員が一人ひとりの子供と向き合う時間を確保できる。
② 全国の中核市では約63%が導入済み、大阪府内の政令市・中核市では、高槻市以外はすべて導入済みであり、高槻市は非常に遅れてしまっている。
③ 年間2,000万円(教職員1人あたり年間1万円)程度で実施できる。

教員の多忙化を解消し教育の質を改善する

近年、教職員の多忙化が叫ばれており、全国で業務改善への取組が行われています。その取組の1つとして、平成28年3月に校務支援システム導入についての

一般質問をいたしました。校務支援システムとは、出席管理や指導要録の作成などの校務をシステム上で管理・運用することができるサービスのことで、導入すれば、効率的な校務処理による教育活動の質の改善、教職員のゆとりを確保でき、子供に向き合う時間を確保し、質の高い教育を実現するためにも、校務支援システムを高槻市でも導入するべきだと私は考えています。

校務支援システムの他市の導入状況は

そこで、まず国や他市の導入の動きを確認しました。国としては、すべての学校に校務支援システムを普及

させることを目標としており、実際に、大阪府内の政令市・中核市では、高槻市以外のすべての自治体ですべて導入済み。全国の中核市では、導入済みが約63%で、検討中もあわせると、なんと約96%の中核市がシステムの導入・検討をしていることがわかりました。

子供への指導時間が1日30分以上増加も

前回の一般質問以降、高槻市でも校務支援システムの研究・検討が進められており、平成29年10月の「高槻市IT推進本部会議」で検討内容が報告されました。その検討内容を確認したところ、初期費用約450万円、維持費用年間約2000万円

導入による業務改善イメージ
名簿管理: 名簿
出席簿: 名簿 + 出欠情報
成績処理: 名簿 + 出欠情報 + 成績
通知表: 名簿 + 出欠情報 + 成績 + 通知表
指導要録: 名簿 + 出欠情報 + 成績 + 通知表 + 指導要録情報
保健業務: 名簿 + 保健情報
に情報を一度入力すれば、にすべて反映されるため手間を省ける。現在はその都度入力している。



日頃生活の中でお困りのこと、市政への疑問や不満など、なんでもご相談ください！直接会ってでも、メールや電話でも構いませんのでお気軽にどうぞ！
070-5508-9243
mail@takenakaken.net

プロフィール
竹中健(たけなかけん) 1987年7月生まれ(30歳)
阿武山小・中学校/春日丘高校/立命館大学法学部 卒業
家族は妻と娘ひとり(1歳)。趣味はサッカーと読書。
会派『自民党・蒼政会議員団』。市政報告は市内全戸に自ら配布。
http://takenakaken.net 〒569-1037 東城山町2-12-102
発行元: 高槻市議会議員 竹中健 / 企画・編集・デザイン: 竹中健



編集後記
今回は盛りだくさんの内容でしたが、いかがでしたでしょうか。特に、潜在的な待機児童については社会問題となっていますし、子育てしやすい街を目指す高槻市にとっては、とても重要な課題だと思っています。議会で言いっぱなしにせず、丁寧に何度も進捗を確認していくことで着実な市政の前進を期待できます。今後も未来視点と市民目線に立った政策提案を続けていきます！